

蚕糸功績賞

町井 博明

功績概要

昭和54年農林水産省蚕糸試験場に入省後、20数年間一貫して桑の生理・遺伝に関する研究に従事した。桑の組織培養において、不定芽培養系を確立するとともに本培養系を用いて桑苗の大量増殖、人工種子の作製及び外来遺伝子の導入に成功した。これらの成果に対して、日本蚕糸学会から蚕糸学進歩賞及び蚕糸学会賞が授与された。また、紫外線照射桑葉において特異的に誘導されるミトコンドリアプロセッシングペプチダーゼ遺伝子を単離・同定し、同遺伝子がミトコンドリアへのタンパク質輸送を制御している機構を明らかにした。さらに、蚕から単離された抗菌性タンパク質・セクロピンの遺伝子を導入したイネを作出し、白葉枯病等の細菌病に対して抵抗性を示すことを世界に先駆けて明らかにした。また、桑の品種育成にも取り組み、密植機械収穫向き桑品種「なつのぼり」を育成するとともに、我が国で初めて果実用桑品種「ララベリー」「ポップベリー」の開発に貢献した。「ララベリー」に対しては、貞明皇后記念蚕糸技術賞が授与された。

平成13年以降は、農業生物資源研究所において、研究プロジェクトの企画・立案・推進及び研究所の管理運営等に従事した。特に遺伝子組換えカイコによる高機能シルク（蛍光シルク等）の開発及び有用物質（体外診断薬等）の生産を目的とした国のプロジェクトを主導するとともに、養蚕農家による遺伝子組換えカイコの飼育を実現させ、組換えカイコの産業利用に大きく貢献した。また、JICAの短期専門家として、「インド二化性養蚕開発計画」や「ウズベキスタンの養蚕調査と技術指導」に参画し、海外技術協力にも貢献した。さらに、平成15年から6年間、国際養蚕委員会の委員を務めた。また、長年の研究活動及び業績に対して、ルイ・パスツール賞が授与された。

このように、研究・運営の両面に亘って、また国内外において蚕糸業の発展に多大な貢献をしてきた功績は大きい。